

令和6年度 栃木県こどもモニター
第4回アンケート結果
(保護者)

調査実施の概要

1. 栃木県こどもモニターってなに

栃木県は、こどもに関する施策を考えて実現するため、こどもや若者、保護者の意見やアイデアを継続的に集め、政策に取り入れることを目的として「栃木県こどもモニター」を募集します。

モニターのみなさんには、栃木県についてのアンケートから意見を収集し、これからの栃木県の施策やルール作りにつなげていきます。

もっと暮らしやすい栃木県になるように、いっしょに考えましょう！

2. 第4回アンケート期間

令和7年1月8日（水曜日）から2月7日（金曜日）

3. アンケート方法

アンケート対象者にメールで回答 URL を送付、WEB サイトを通じてアンケートに回答。

4. モニター数

257名

5. 第4回アンケート回答者数

234名

6. 第4回アンケート回答率

91.1%

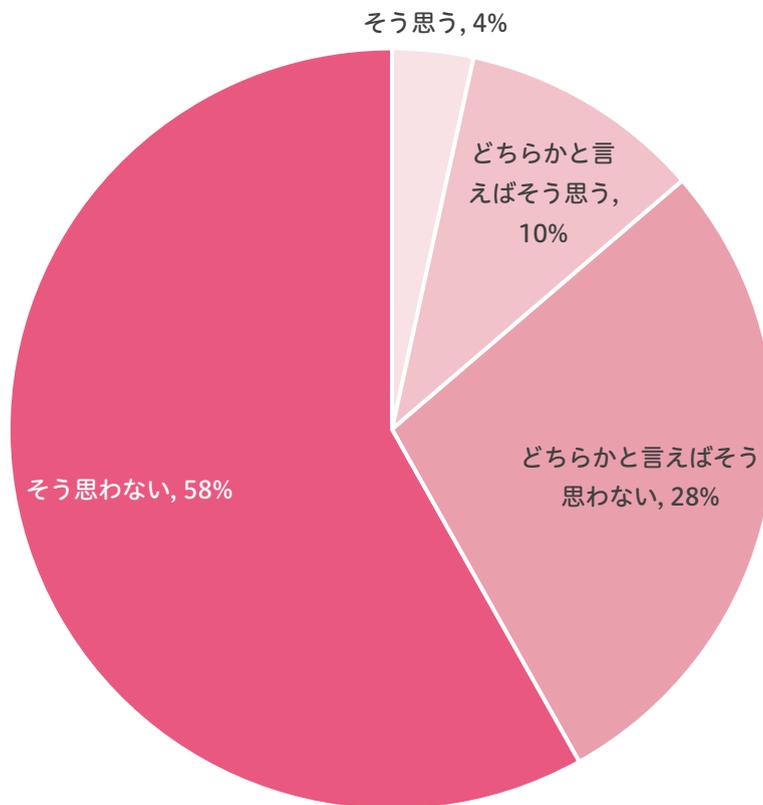
※「その他」を選択した場合の自由記述欄は原文のまま掲載しています。

性別	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
男性	25	22	9.4%	88.0%
女性	231	211	90.2%	91.3%
その他	1	1	0.4%	100.0%
合計	257	234	-	91.1%

年齢	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
10代	0	0	0.0%	0.0%
20代	15	13	5.6%	86.7%
30代	111	100	42.7%	90.1%
40代	97	90	38.5%	92.8%
50代	34	31	13.2%	91.2%
60代	0	0	0.0%	0.0%
70代以上	0	0	0.0%	0.0%
合計	257	234	-	91.1%

※ 集計結果は百分率(%)で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したものになります。
そのため、合計が100%にならないものがあります。

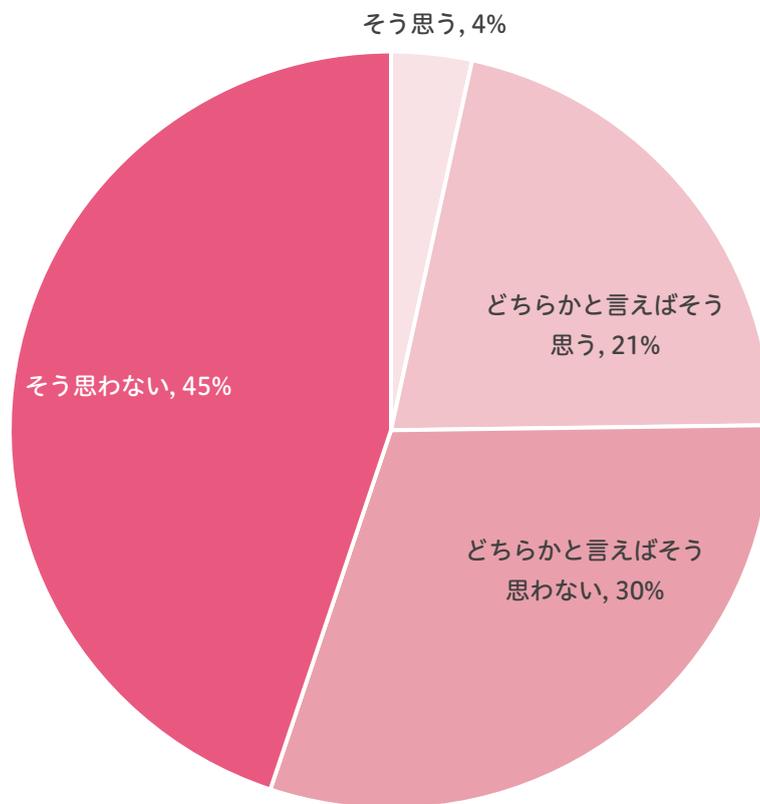
Q1.男性が夜遅くまで仕事をしたり、休みの日も仕事へ行くのは当たり前だと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(58%)と「どちらかと言えばそう思わない」(28%)を合わせると、8割以上の方が「男性が夜遅くまで仕事をしたり、休みの日も仕事へ行くのは当たり前だ」と思っていない結果となった。

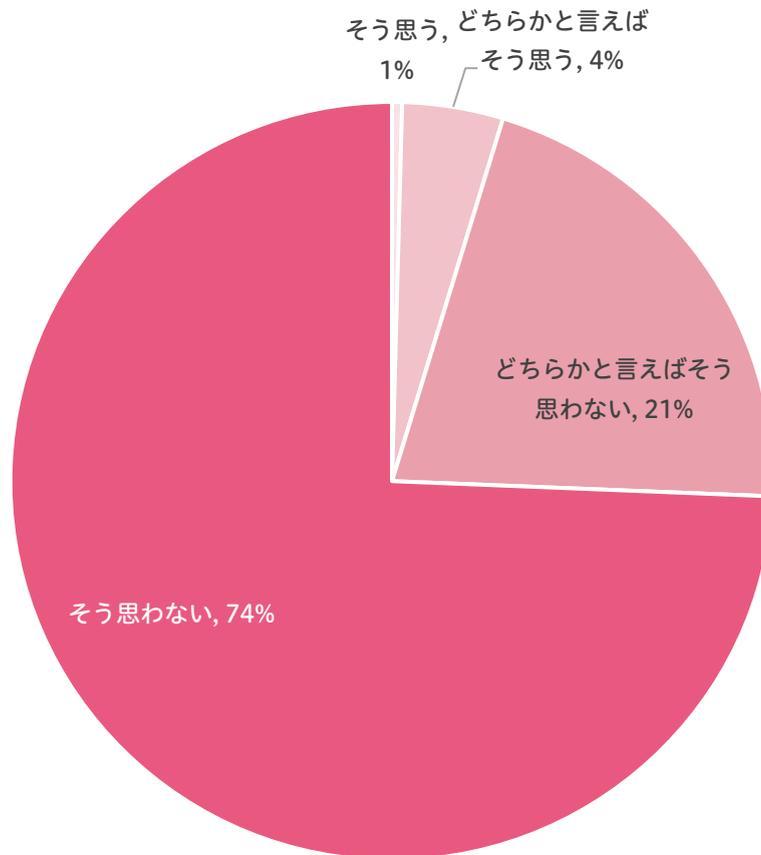
Q2.共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(45%)と「どちらかと言えばそう思わない」(30%)を合わせると7割以上の方が、「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」と思っていない結果となった。

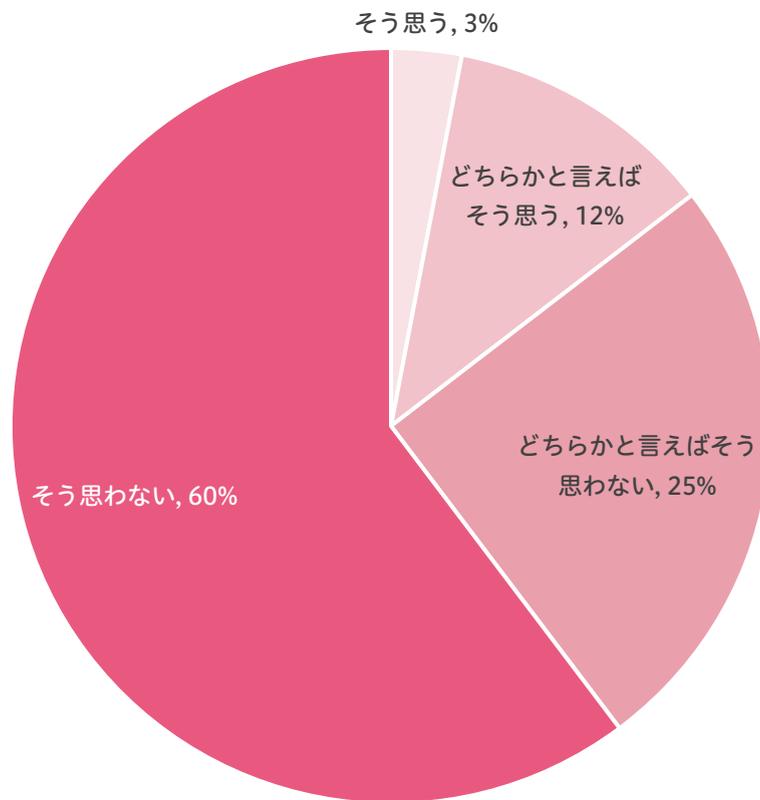
Q3.職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(74%)、「どちらかと言えばそう思わない」(21%)から、9割以上の方が「職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ」と思っていない結果となった。

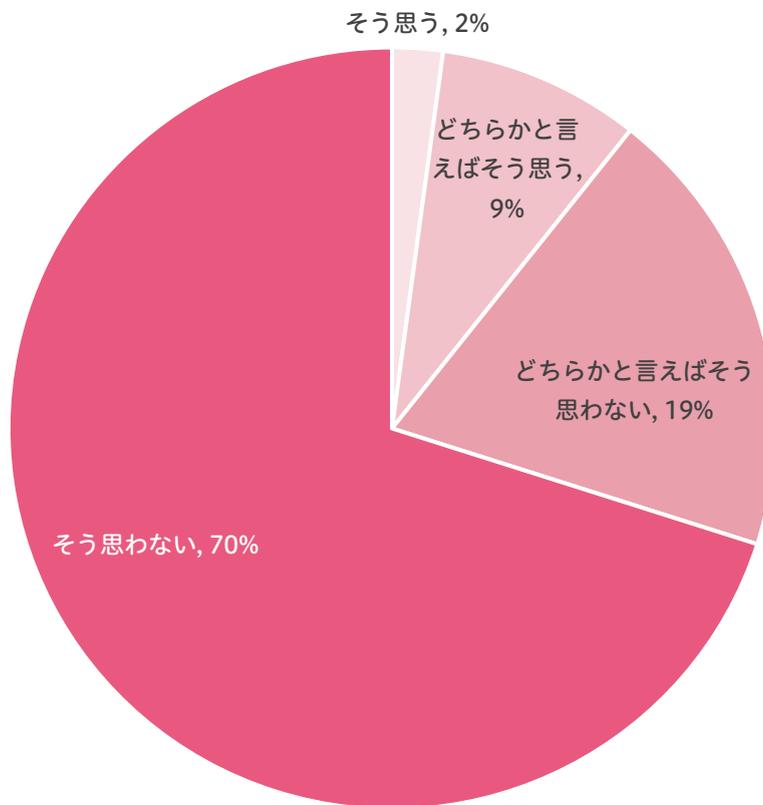
Q4.女性は結婚して家庭に入る方が良いと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(60%)、「どちらかと言えばそう思わない」(25%)から、8割以上の方が「女性は結婚して家庭に入る方が良い」と思っていない結果となった。

Q5.PTAには、女性が参加するべきだと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(70%)、「どちらかと言えばそう思わない」(19%)から、約9割の人が「PTAには、女性が参加するべきだ」と思っていない結果となった。

Q6.県では、こどもたちの心と体の健やかな成長などの支援のための計画をたてています。この計画が作られる理由などを皆さんに伝えるための簡単なリーフレットの作成をしています。表紙のデザインは、どれが良いと思いますか。



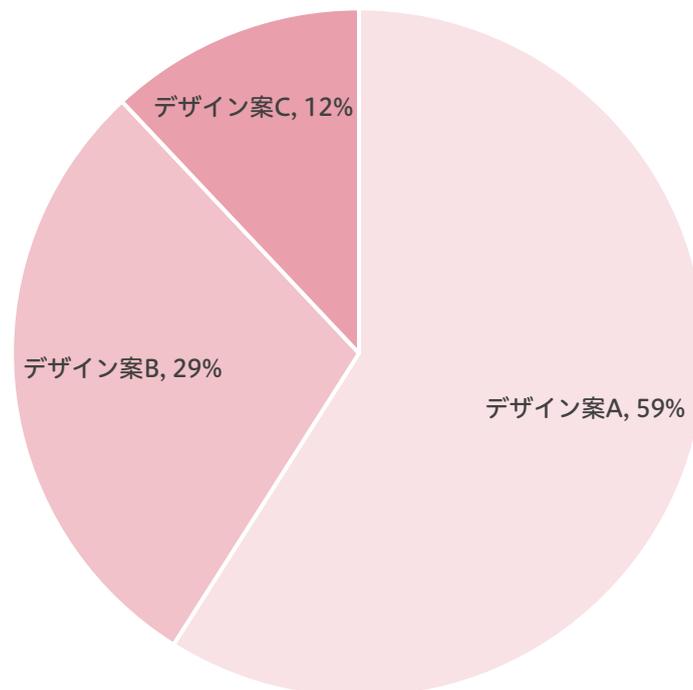
デザイン案A



デザイン案B



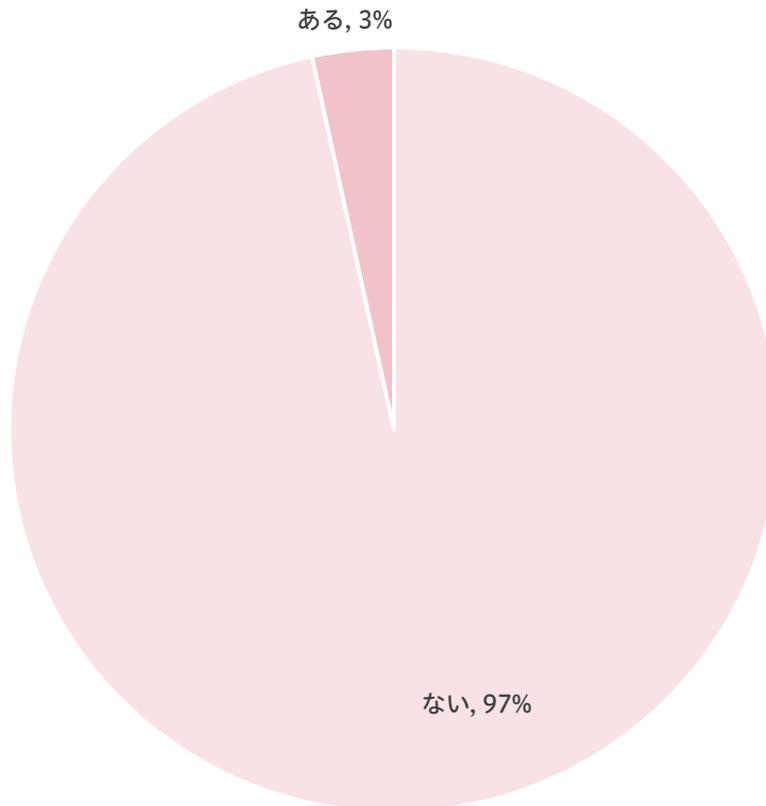
デザイン案C



【調査結果の概要】

「デザイン案 A」が 59%と最も多く、続いて「デザイン案 B」が 29%、「デザイン案 C」が 12%という結果となった。

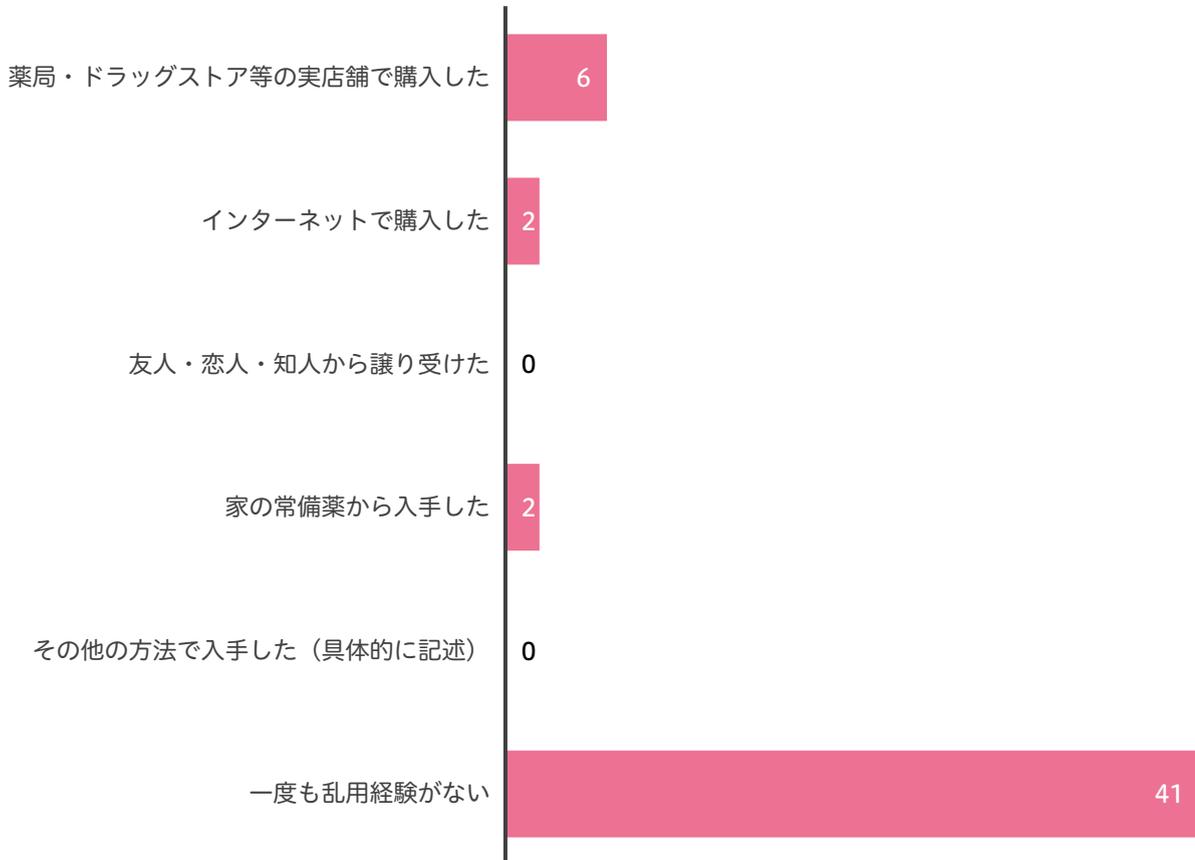
Q7.この1年間に、あなたは市販の咳止め薬、風邪薬、解熱鎮痛薬を乱用目的（治療目的ではなく）で使用した経験がありますか。ここでいう乱用目的とは、「ハイになるため、気分を変えるために決められた量や回数を超えて使用すること」と定義します。



【調査結果の概要】

「ない」が97%と大半を占めており、「ある」が3%という結果となった。

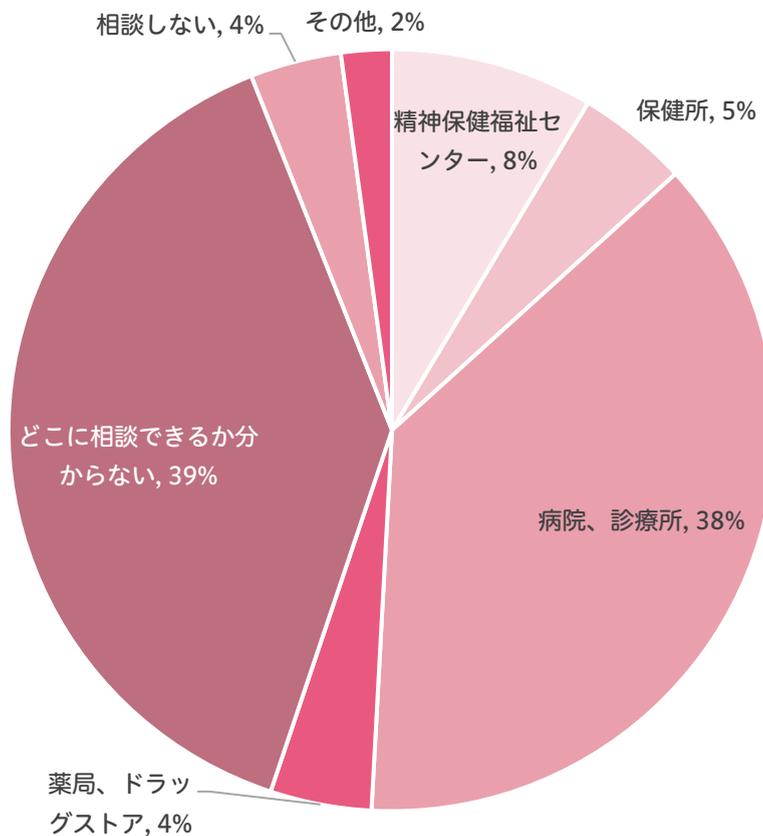
Q8.この1年間に、市販薬の乱用経験がある人のみお答えください（Q7で「ある」と回答した人）。乱用に用いた市販薬をどのように入手しましたか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。



【調査結果の概要】

「一度も乱用経験がない」（41件）が特に多く、続いて「薬局・ドラッグストア等の実店舗で購入した」（6件）、「インターネットで購入した」（2件）、「家の常備薬から入手した」（2件）となっている。

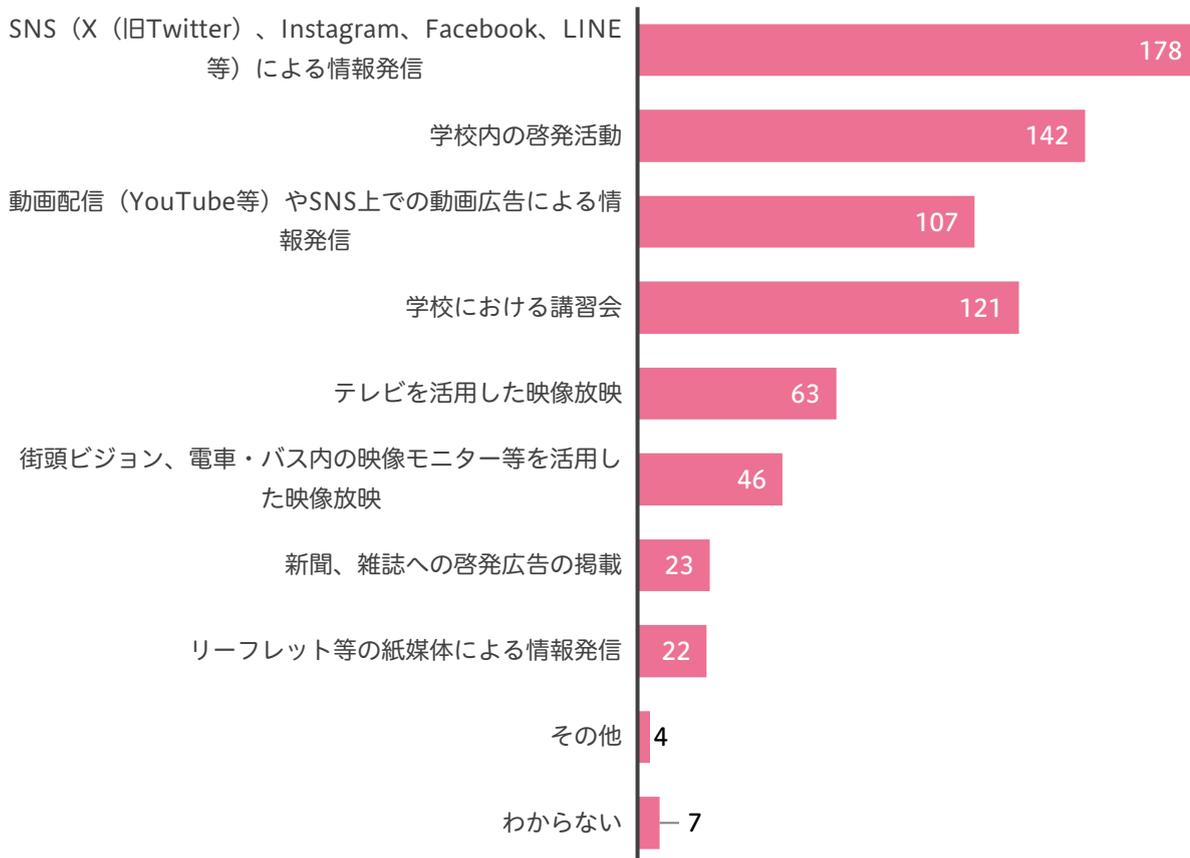
Q9.あなたは、自身または周囲の人が市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）に関することで困った時、どこに相談しますか。次の中から1つ選んでください。



【調査結果の概要】

「どこに相談できるか分からない」(39%)と「病院、診療所」(38%)が特に多く、以下に「精神保健福祉センター」(8%)、「保健所」(5%)と続いている。

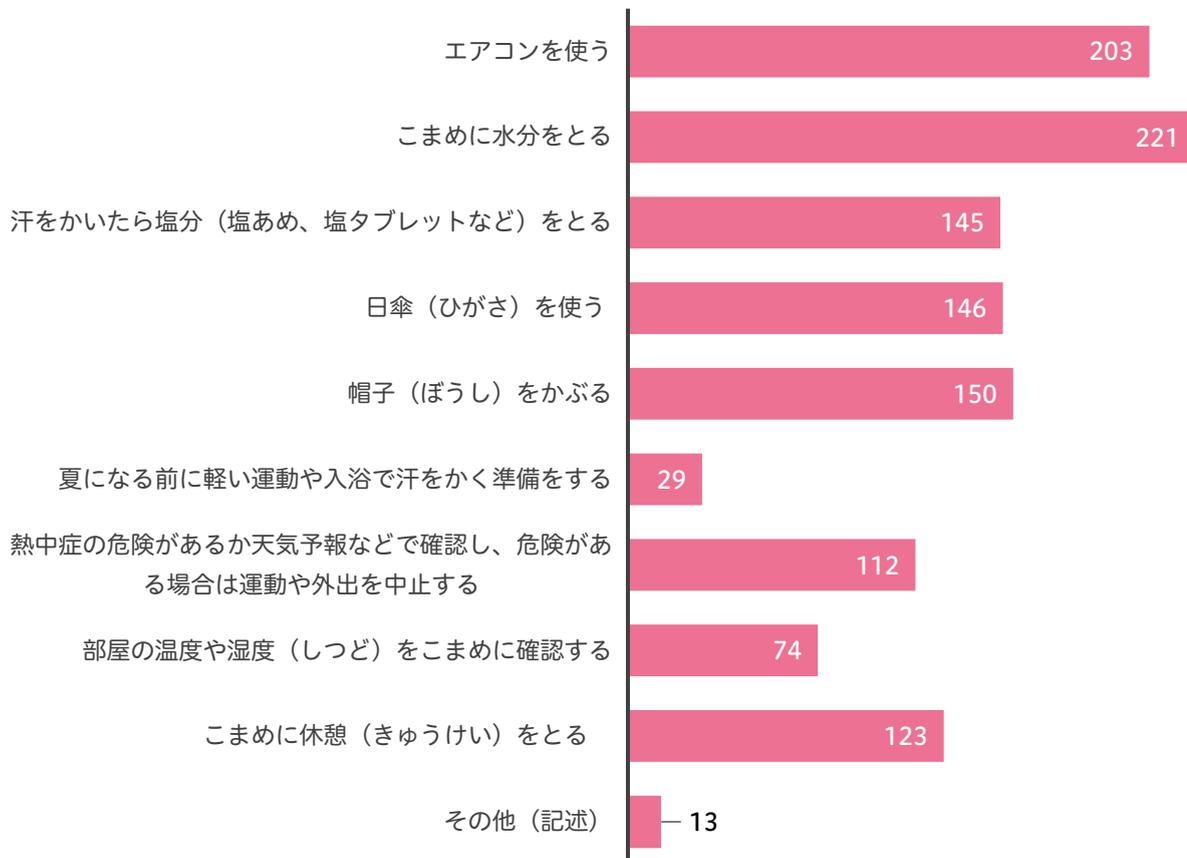
Q10.市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）に関する啓発活動について、若者の心に響き、印象に残る啓発をするには、どのような方法が効果的だと思いますか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。



【調査結果の概要】

「SNS (X (旧 Twitter)、Instagram、Facebook、LINE 等) による情報発信」(178 件) が最も多く、以下に「学校内の啓発活動」(142 件)、「学校における講習会」(121 件)、「動画配信 (YouTube 等) や SNS 上での動画広告による情報発信」(107 件)と続いている。

**Q11.あなたは熱中症予防のため、どのような対策を行っていますか。
【いくつか選んでください】**



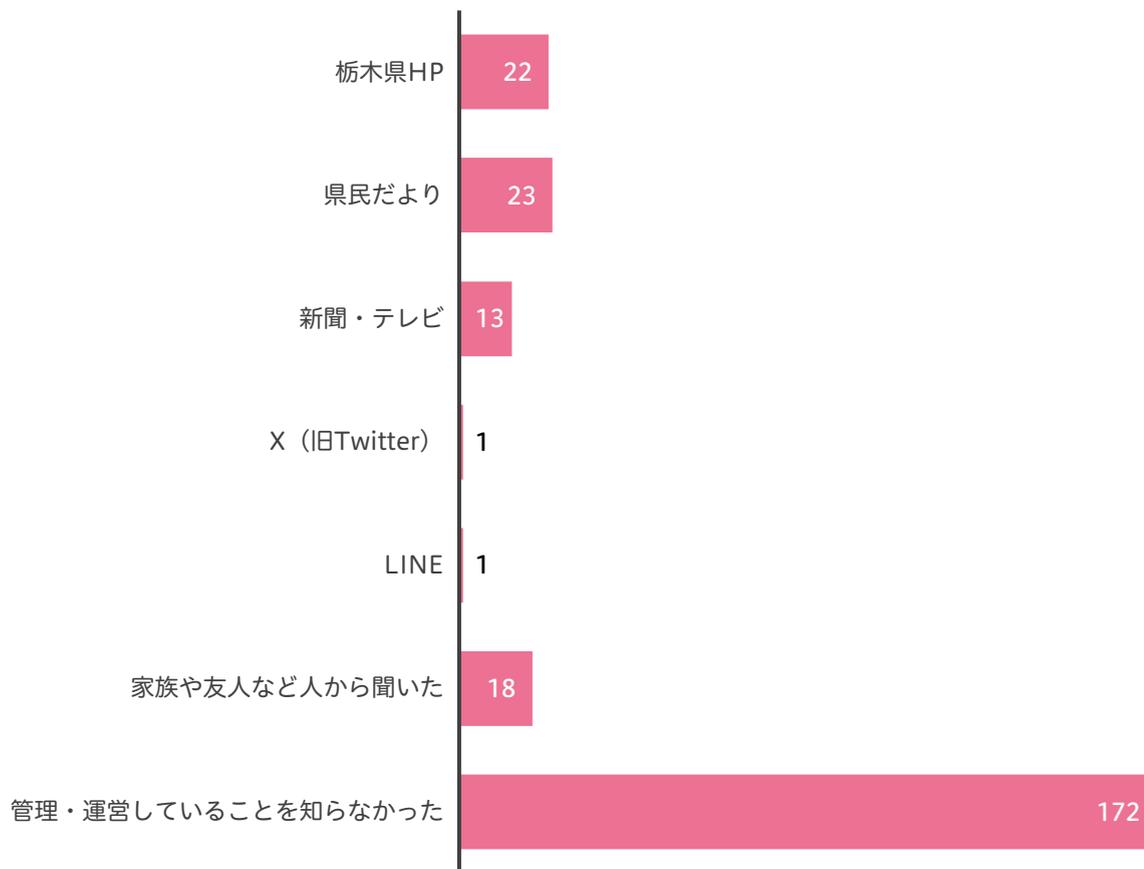
【調査結果の概要】

「こまめに水分をとる」（221件）が最も多く、以下に「エアコンを使う」（203件）、「帽子をかぶる」（150件）、「日傘を使う」（146件）と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ ネッククーラーを使用
- ・ 寝不足をさける。過労時に、無理をしない。
- ・ 川など涼しい場所に出かけて遊ぶ
- ・ 年間を通して丈夫な体づくりにつながるよう生活リズムを整える、年齢に応じた十分な睡眠時間の確保をする
- ・ 基礎代謝を高めるために早寝早起きを心掛ける
- ・ 体を冷やす。水分をいくら摂っても熱中症予防にはなりません。せっかくやるなら正しい知識を啓蒙してください。
- ・ 本格的に暑くなる前にキャンプなどで外の空気に触れたり、外遊びをして汗をかく準備をする。
- ・ 規則正しい生活
- ・ 空調ベストを着る熱がこもらないような洋服を着る
- ・ よく寝る。食欲が無くても一日3食摂る。そうめんなど喉越しの良いもの&水分が摂れるものを食べる。
- ・ エアコンの温度を下げすぎず、少しの暑さには耐えられる身体づくりをする
- ・ 身体を冷やすための氷を首に巻く

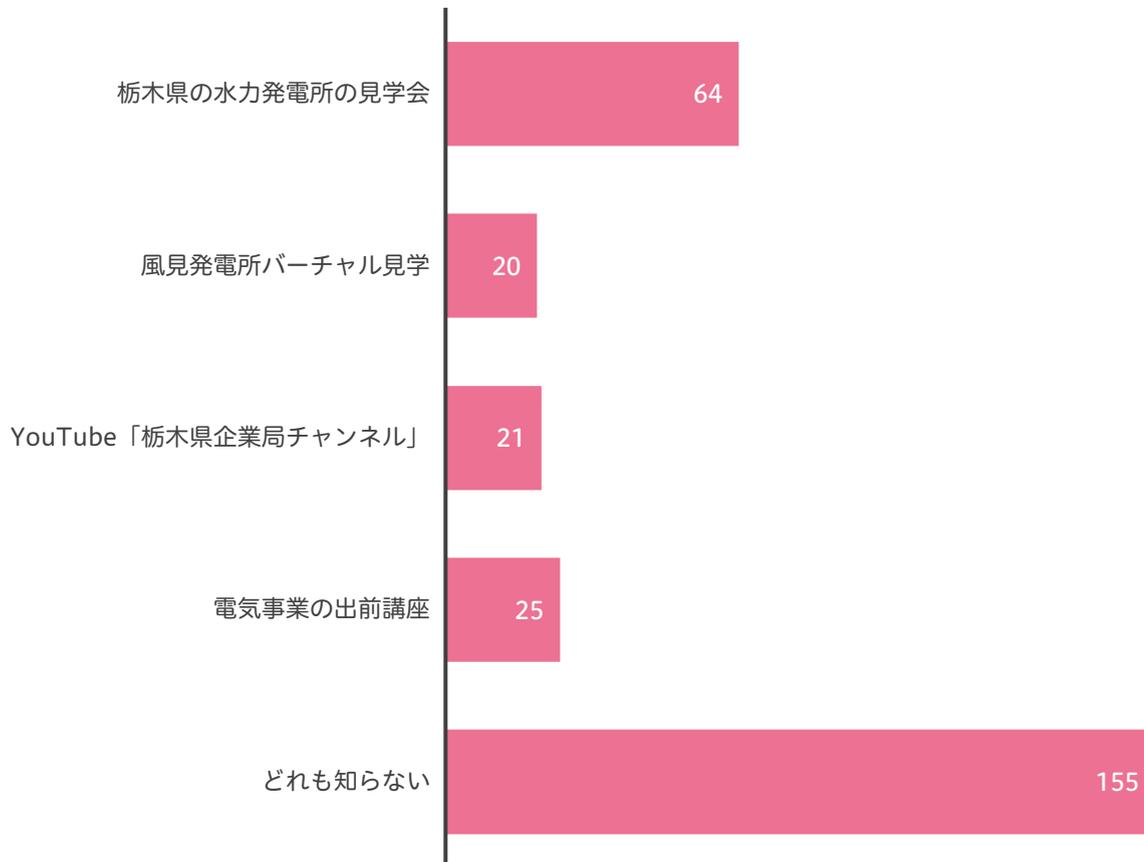
Q12.栃木県は水力発電所を管理・運営していますが、それをどこで知りましたか。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「管理・運営していることを知らなかった」(172件)が特に多く、以下に「県民だより」(23件)、「栃木県HP」(22件)と続いている。

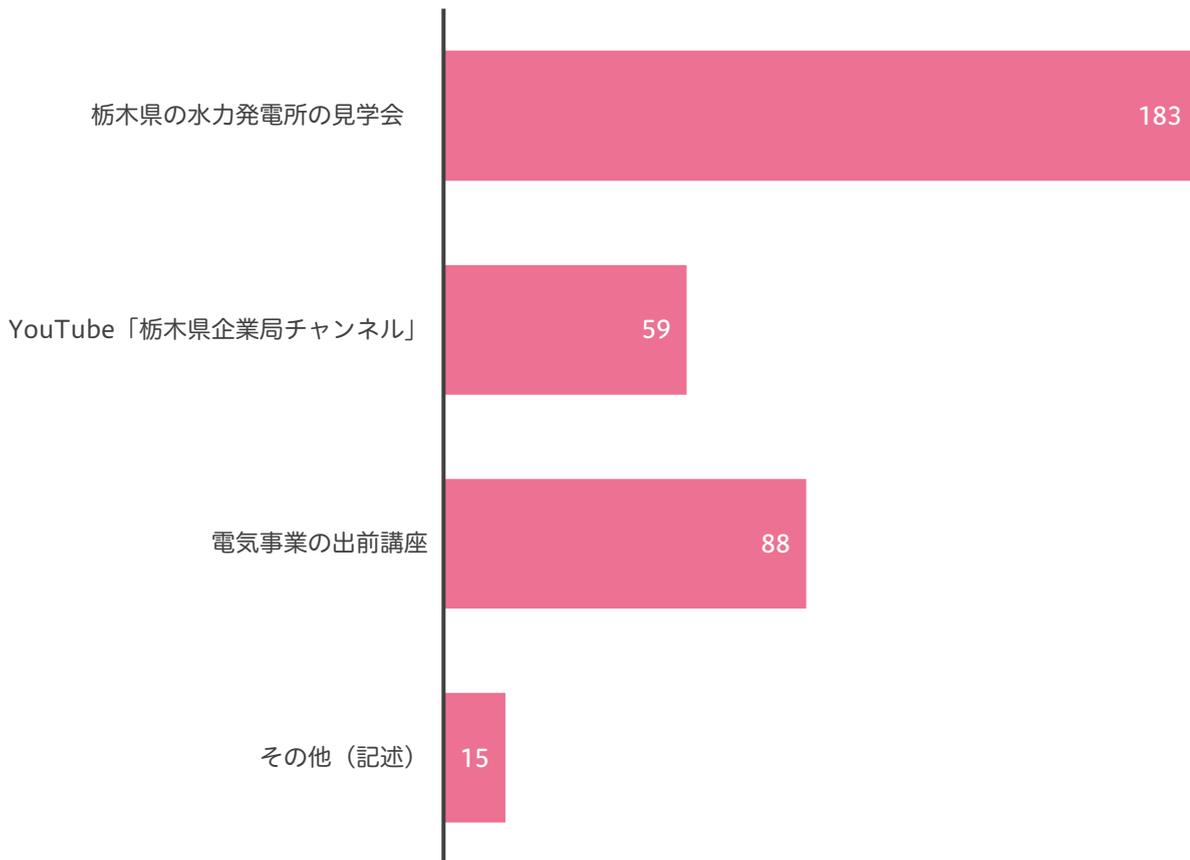
Q13.栃木県の水力発電所について皆さんに知ってもらうため活動を行っています。この中で知っている活動について教えてください。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「どれも知らない」(155件)が特に多く、以下に「栃木県の水力発電所の見学会」(64件)、「電気事業の出前講座」(25件)、「YouTube『栃木県企業局チャンネル』」(21件)と続いている。

Q14.栃木県の水力発電所を皆さんに知ってもらうための活動について、特に実施してほしいことは何ですか。【いくつでも選んでください】



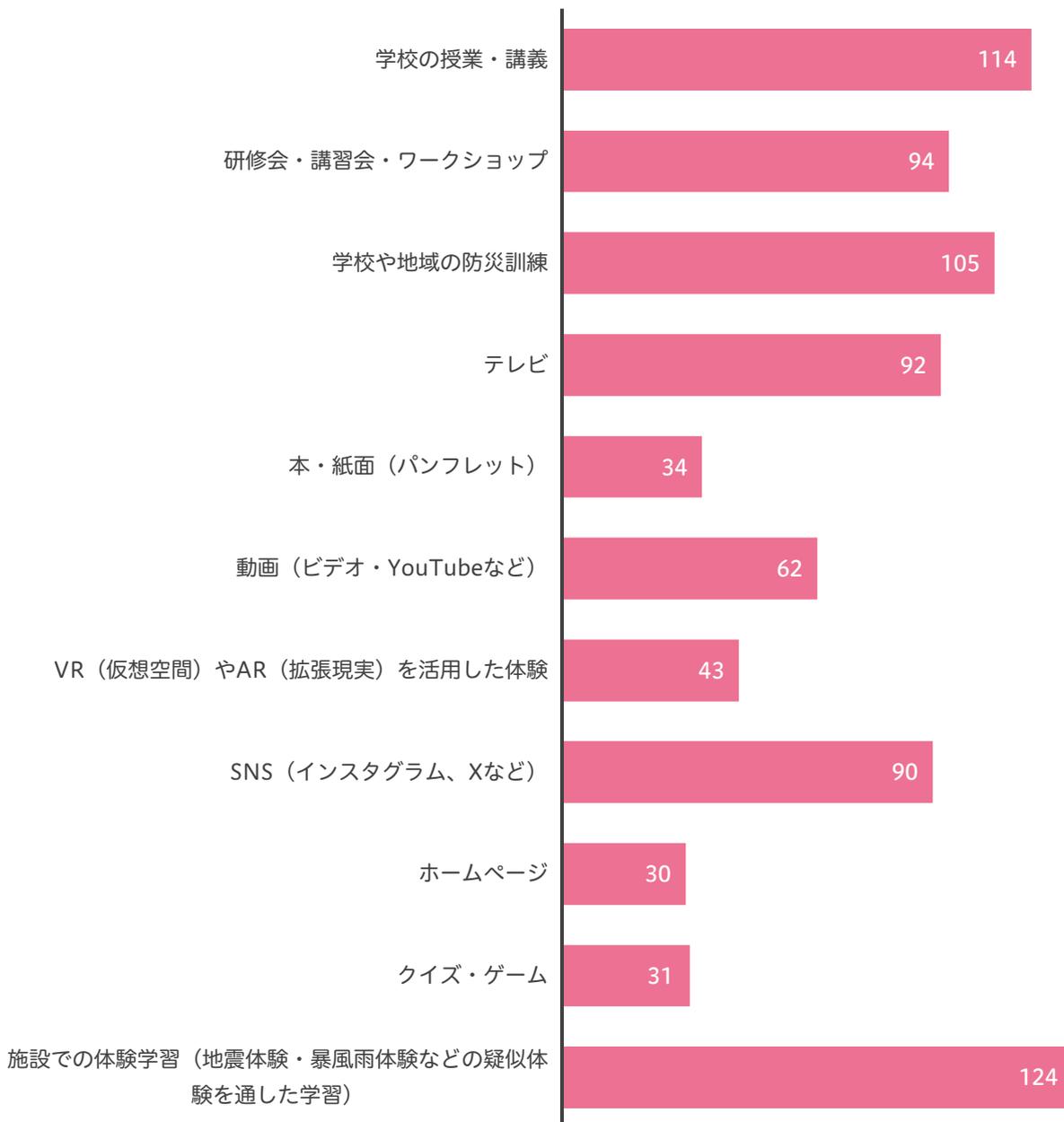
【調査結果の概要】

「栃木県の水力発電所の見学会」（183 件）が最も多く、以下に「電気事業の出前講座」（88 件）、「YouTube『栃木県企業局チャンネル』」（59 件）と続いている。

【その他の自由記述】

- TV やテレビ番組のタレントさんに、見学会に参加してもらう。ドラマのロケ地や映画のシーンにいらして聖地巡礼のようにみんなに観てもらおう。
- 子どもの社会科見学に入れることにより親子ともども周知される
- 学校の社会科見学や授業
- テレビ CM
- たくさんの人にみてもらえるから
- イベント時に専用ブースの開設学校への講座
- SNS 発信 など 2 件
- Instagram を利用してインスタグラマーが発信する。発信回数を増やす
- 博物館など公共施設での PR 水力発電していることも子ども科学館で知った
- 小学校の遠足などで行き先として水力発電所を加える
- 見学会やってるなら行きたいです
- Q12 の設問に無かったが、ドライブでダム見学をした際に知った。謎解きゲームなどイベントが開催されていた。何かお祭りなどイベントがあると面白いと思う。
- 子供と行く親子イベントなどで活動していると分かるキッカケになるかもしれないです。

Q15.あなたは、防災について学ぶときにどんな学び方に興味を持ちますか。【いくつかでも選んでください】

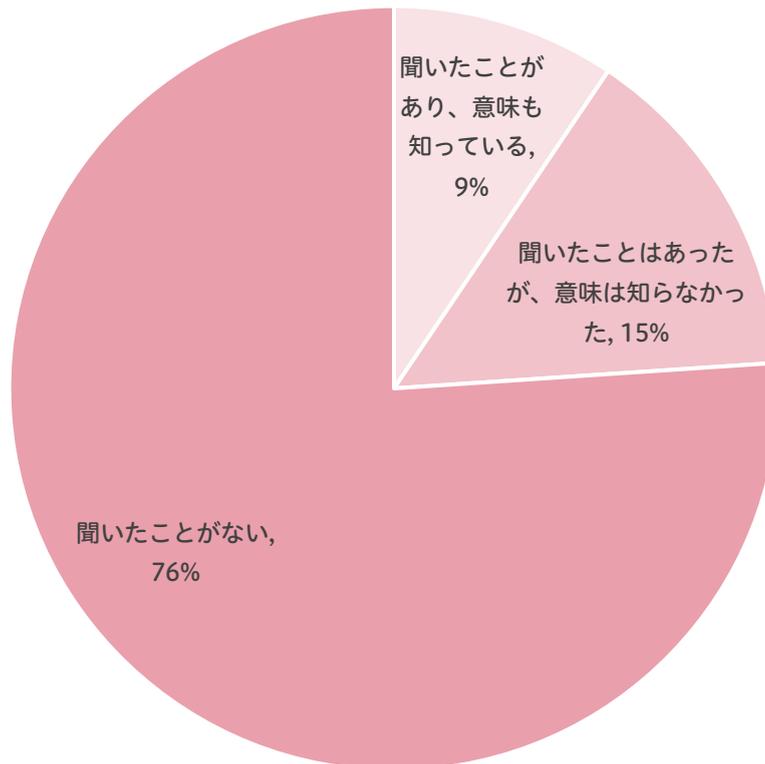


【調査結果の概要】

「施設での体験学習（地震体験・暴風雨体験などの疑似体験を通じた学習）」（124件）が最も多く、以下に「学校の授業・講義」（114件）、「学校や地域の防災訓練」（105件）、「研修会・講習会・ワークショップ」（94件）が続いている。

Q16.近年、台風や大雨による災害が増えています。川やダムを管理する人たちだけでなく、流域（りゅういき）に住む全員で、水による災害を減らす取組を「流域治水（りゅういきちすい）」といいます。この言葉を聞いたことがありますか。

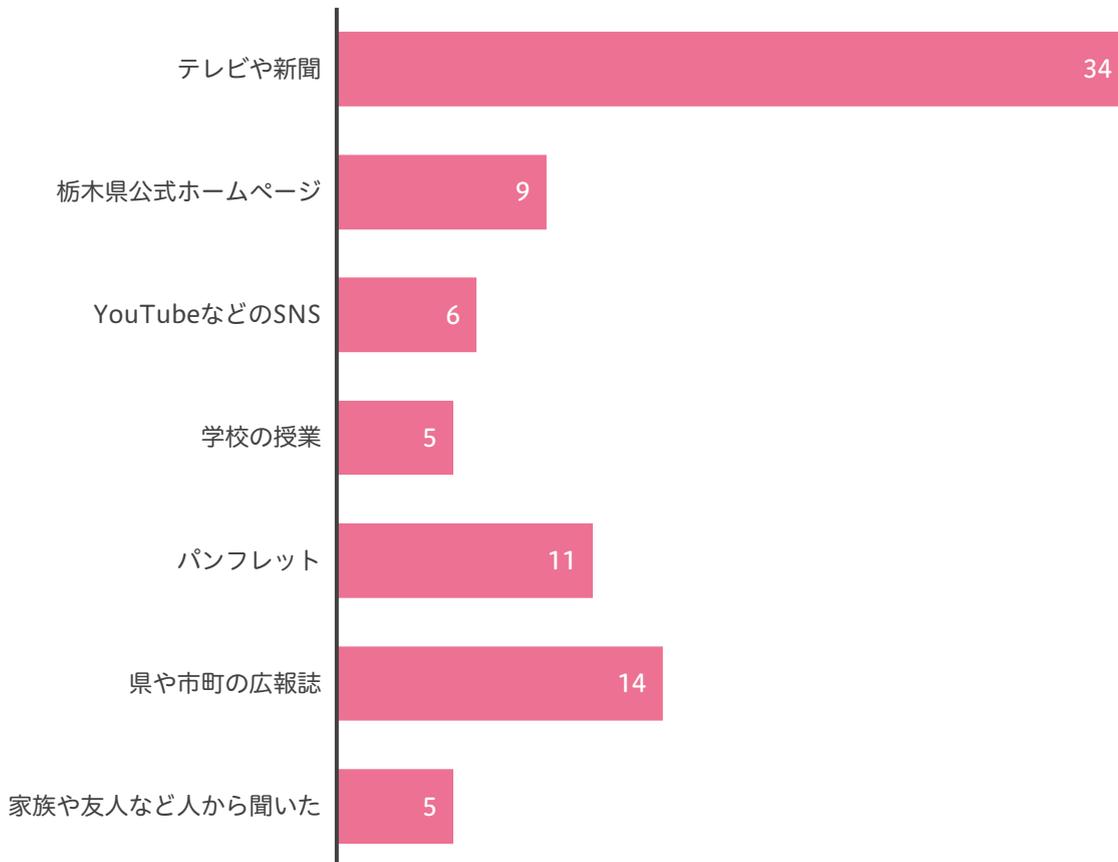
※「流域」とは、降った雨が小さな水路や川を通じて、大きな川に集まる範囲のこと。



【調査結果の概要】

「聞いたことがない」が76%と最も多く、続いて「聞いたことはあったが、意味は知らなかった」が15%、「聞いたことがあり、意味も知っている」が9%という結果となった。

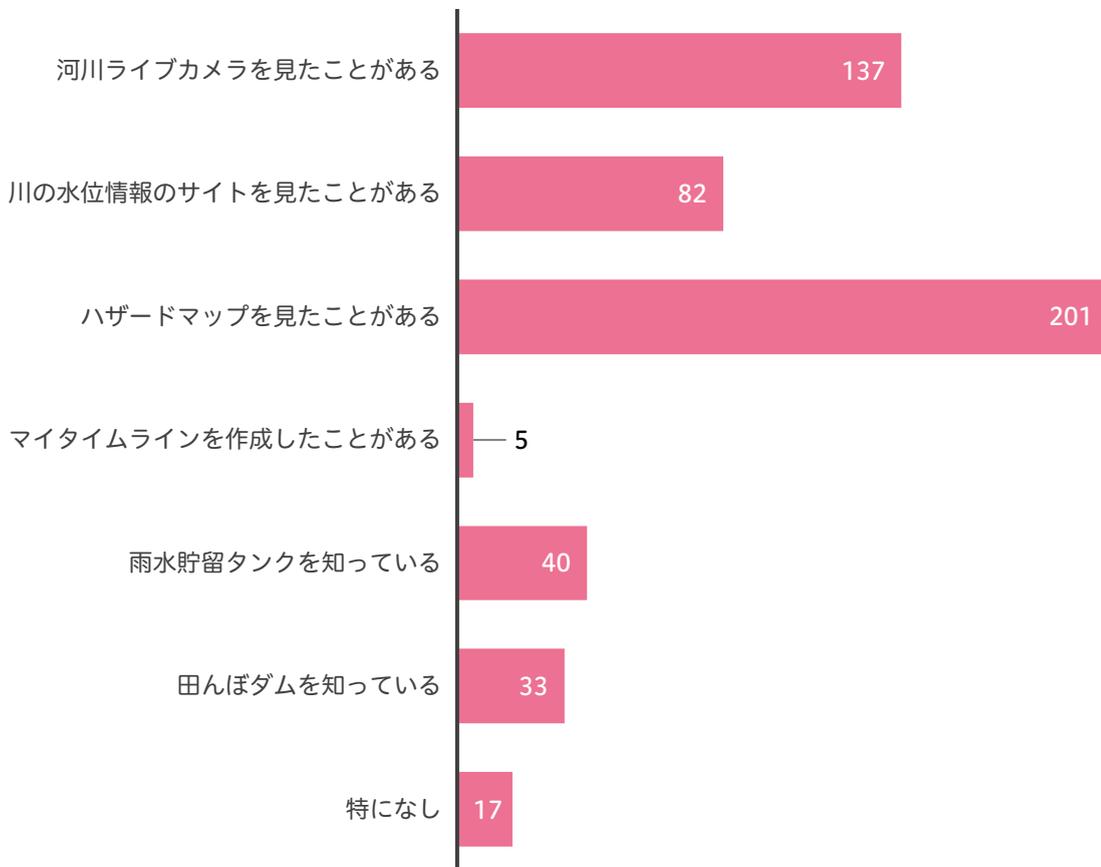
Q17.「Q16」で「聞いたことがあり、意味も知っている」または「聞いたことはあったが、意味は知らなかった」と答えた人は、何で知りましたか。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「テレビや新聞」(34件)が特に多く、以下に「県や市町の広報誌」(14件)、「パンフレット」(11件)「栃木県公式ホームページ」(9件)と続いている。

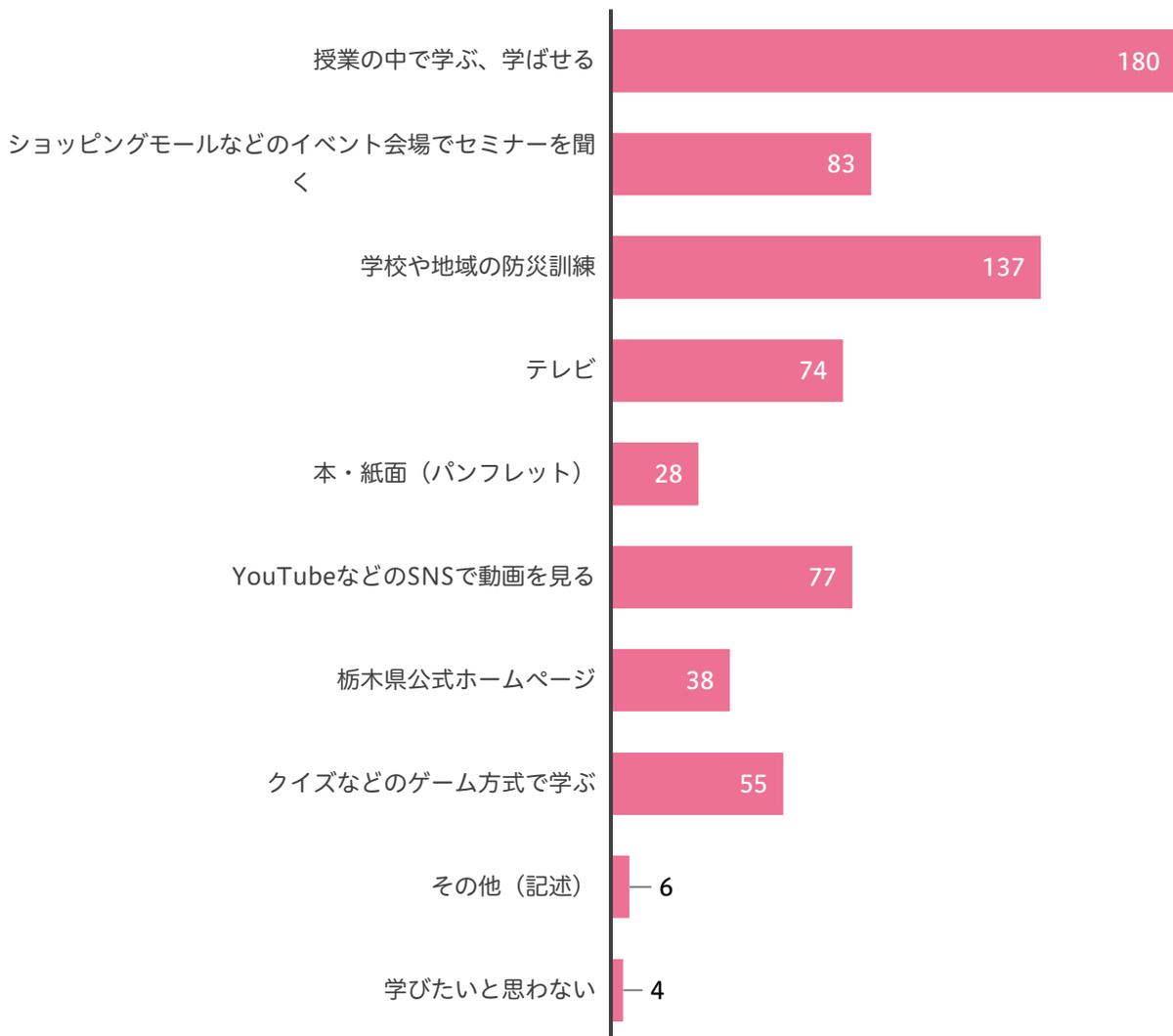
Q18.次の内容のうち、ご自身にあてはまるものはありますか。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「ハザードマップを見たことある」(201件)が特に多く、以下に「河川ライブカメラを見たことがある」(137件)、「川の水位情報のサイトを見たことがある」(82件)、「雨水貯留タンクを知っている」(40件)と続いている。

Q19.どんな方法であれば、流域治水について学ぶきっかけになりますか。【いくつでも選んでください】



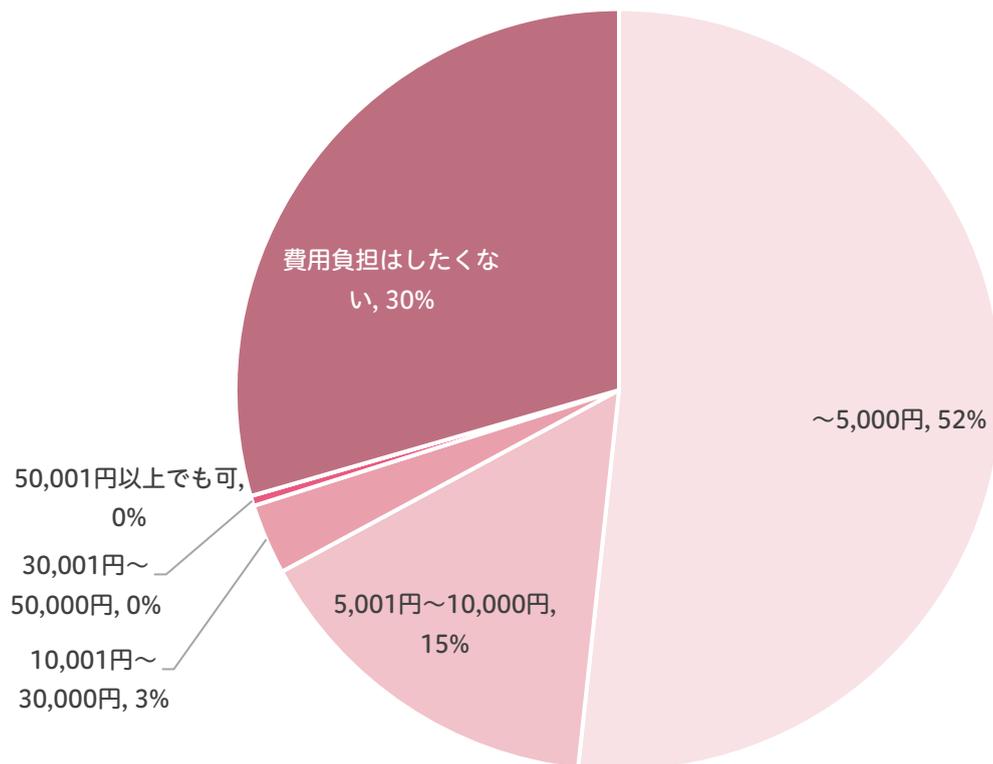
【調査結果の概要】

「授業の中で学ぶ、学ばせる」（180件）が最も多く、以下に「学校や地域の防災訓練」（137件）、「ショッピングモールなどのイベント会場でセミナーを聞く」（83件）、「YouTubeなどのSNSで動画を見る」（77件）と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 企業に協力を仰ぐ。
- ・ 新聞広告のような、新聞一面掲載
- ・ 学校の親子イベント
- ・ 田んぼや雨水貯留タンクのあるところにアピールする看板などをたてる
- ・ 地域のイベント時に専用ブース開設
- ・ イベントでの展示会

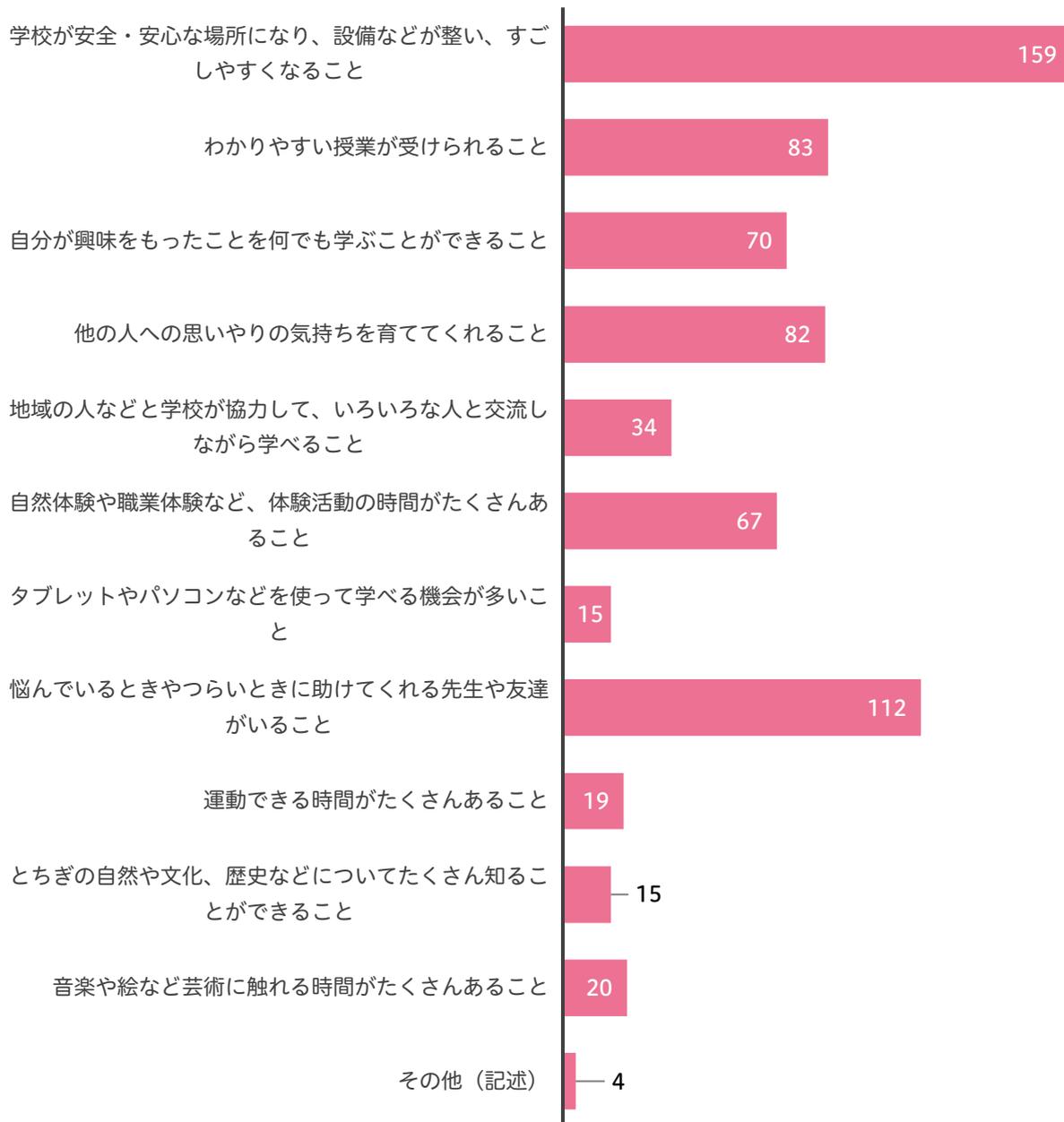
Q20.「田んぼダム」や「雨水貯留タンクの設置」は、県民の皆さんも取り組むことができる流域治水のひとつで、多くの人に取り組むことで水による災害を減らす効果があります。あなた自身が流域治水に取り組む場合、いくらまでなら費用負担しても良いと思いますか。



【調査結果の概要】

「～5000円」(52%)が約半数を占めており、以下に「費用負担はしたくない」(30%)、「5,001円～10,000円」(15%)と続いている。

Q21.学校に対して、あなたが特に力を入れて欲しいと思うことは何ですか。【3つまで選んでください】



【調査結果の概要】

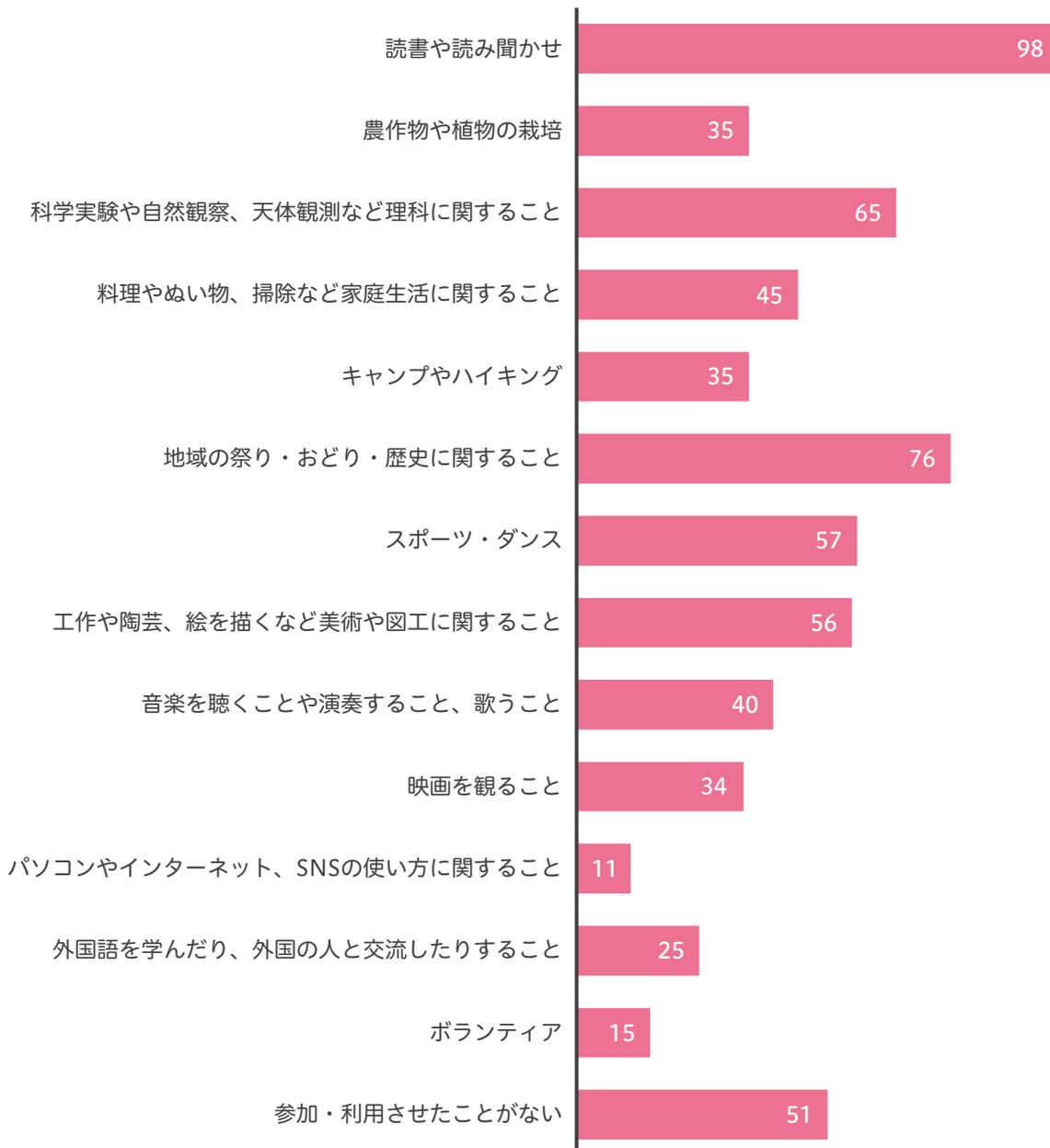
「学校が安全・安心な場所になり、設備などが整い、すごしやすくなること」(159件)が最も多く、以下に「悩んでいるときやつらいときに助けてくれる先生や友達がいること」(112件)、「わかりやすい授業が受けられること」(83件)、「他の人への思いやりの気持ちを育ててくれること」(82件)と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 多種多様な人間との関わり合い。

- ・ この記載や住民の要求を重要視するあまり、先生方の負担が増えないようにしてほしい
- ・ 全員に目がいく教育少数クラス〇〇市はマンモス化し過ぎて一人一人に向き合った教育になっていない
- ・ 過度な校則の撤廃
- ・ 一人一人に適したレベルや興味を一緒に考えてくれること

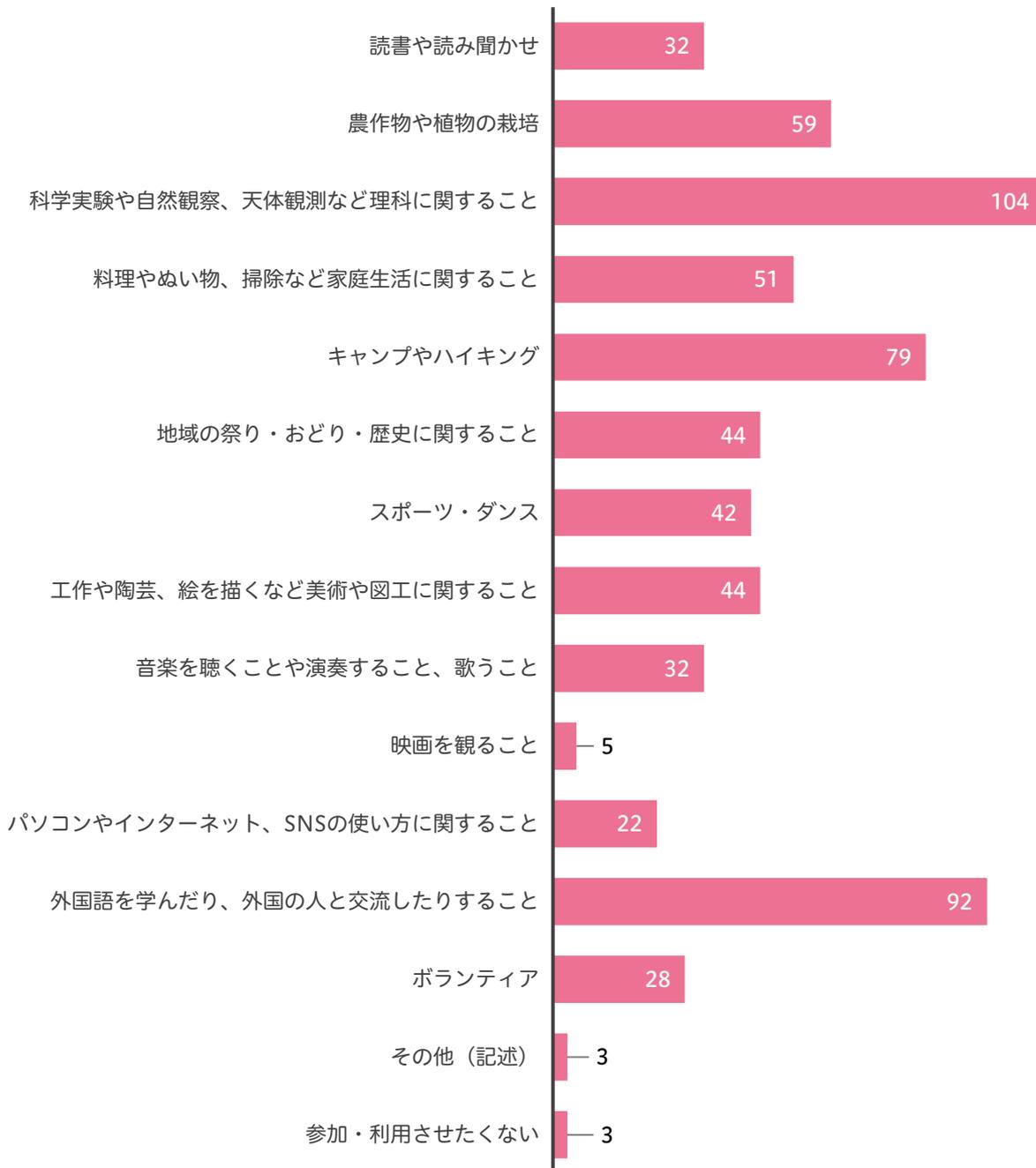
Q22.あなたのお子様は、これまで、地域の公民館や生涯学習センターが実施している講座や教室などで、どのようなものに参加したことがありますか。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「読書や読み聞かせ」(98件)が最も多く、以下に「地域の祭り・おどり・歴史に関すること」(76件)、「科学実験や自然観察、天体観測など理科に関すること」(65件)、「スポーツ・ダンス」(57件)と続いている。

Q23.あなたのお子様に、今後、地域の公民館や生涯学習センターが実施する講座や教室などで、どのようなものに参加させてみたいですか。【3つまで選んでください】



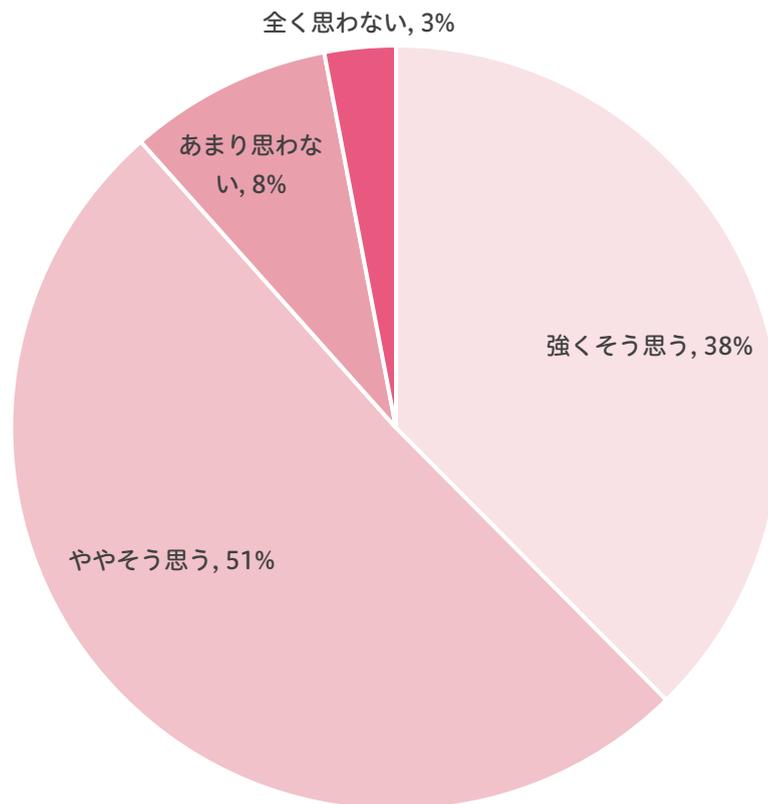
【調査結果の概要】

「科学実験や自然観察、天体観測など理科に関すること」（104件）が最も多く、以下に「外国語を学んだり、外国の人と交流したりすること」（92件）、「キャンプやハイキング」（79件）、「農作物や植物の栽培」（59件）が続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 勉強会とか、でも基本的には中学生なので、自主的に自分が参加したいものに参加してくれたらと思います。ただ、その内容や情報を知る術がなかったりするので、わかりやすい情報告知機能があるといいなと思います。
- ・ 防災キャンプ
- ・ アレルギーを持つ子でも参加できる料理教室やキャンプ等（子どもに小麦、卵、山芋のアレルギーがあり何かと制限がかかってしまうため）

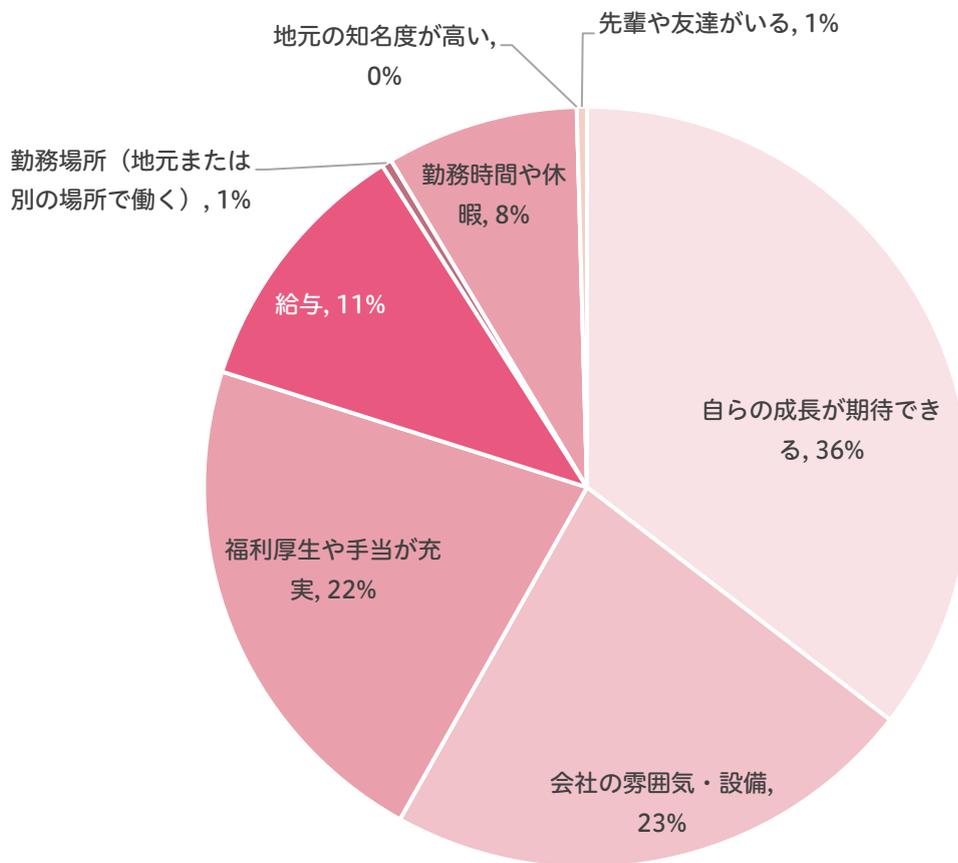
Q24.あなたは、親としてこどもの就業に向けて現実的なアドバイスができるよう、建設業、製造業、林業、農業などの会社で実際に行う業務の内容、勤務時間、給料や昇給、福利厚生、スキル向上や資格の取得など、業界ごとの実際の仕事を知りたいですか。



【調査結果の概要】

「ややそう思う」(51%)が最も多く、以下に「強くそう思う」(38%)、「あまり思わない」(8%)と続いている。

Q25.親として、こどもの就業に向けて現実的なアドバイスをする上で、一番大切なことを教えてください。

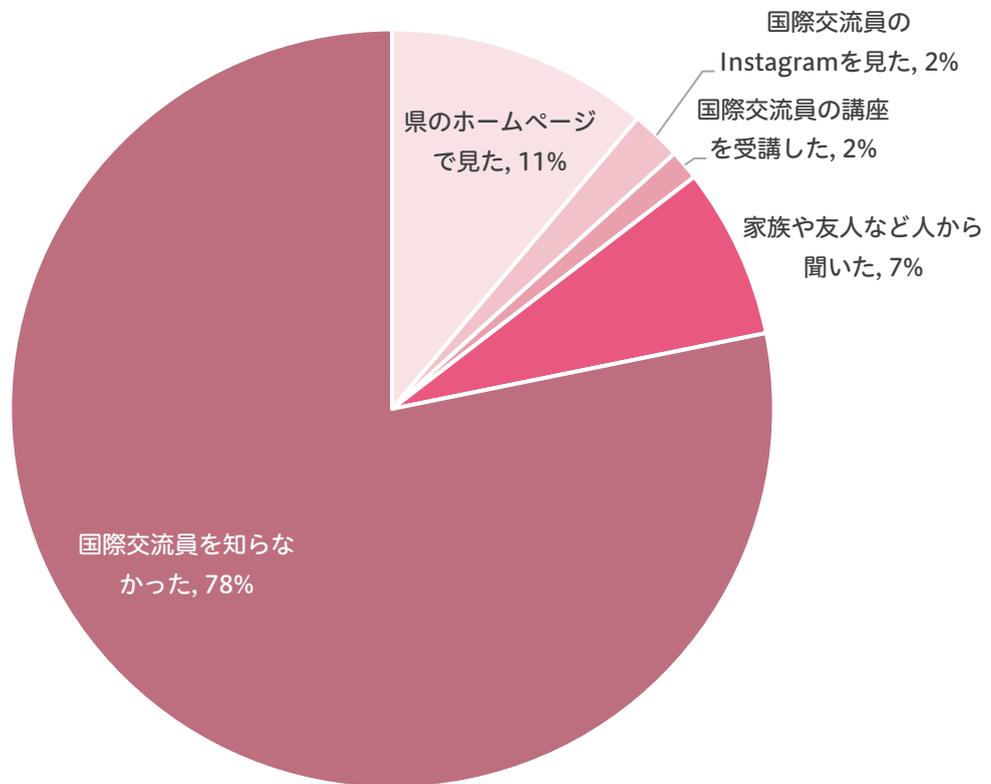


【調査結果の概要】

「自らの成長が期待できる」(36%)が最も多く、以下に「会社の雰囲気・設備」(23%)、「福利厚生や手当が充実」(22%)、「給与」(11%)と続いている。

Q26.国際交流員のことを、何で知りましたか？

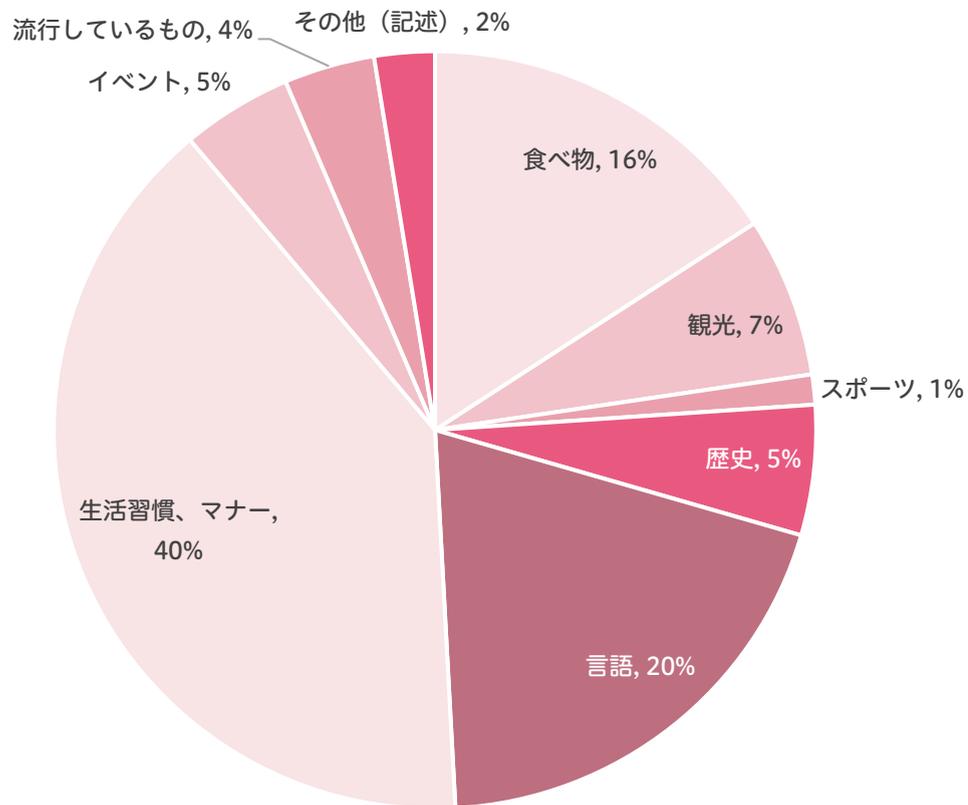
※国際交流員とは、通訳や翻訳、自国の文化紹介などで国際理解を深める活動をする外国人です。



【調査結果の概要】

「国際交流員を知らなかった」(78%)が特に多く、以下に「県のホームページで見た」(11%)、「家族や友人など人から聞いた」(7%)と続いている。

Q27.栃木県にはアメリカ人と中国人の国際交流員が働いています。国際交流員から自国の文化紹介をしてもらうなら、何を教えてほしいですか？



【調査結果の概要】

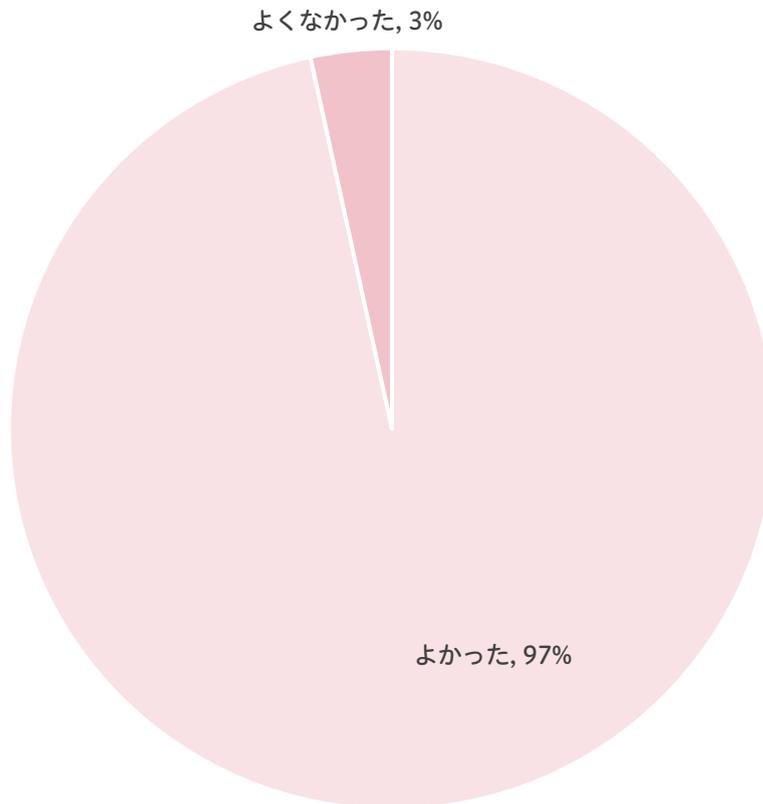
「生活習慣、マナー」(40%)が最も多く、以下に「言語」(20%)、「食べ物」(16%)、「観光」(7%)と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 社会の中での男女の役割に関する日本との違い。また、栄養バランスや食事などを含めた健康意識や教育など、海外の価値観が知れたら面白い。
- ・ お料理をつくりながらそのなかで言語や風習など定期的に言語の教室があると嬉しい（とくに中国語）
- ・ 日本との違い。
- ・ 外国人客を相手にした時に下に見られない、こちらの主張を通す伝え方
- ・ 海外旅行をした時にその国のマナーを知らなくて苦労することがあったので
- ・ 出身の国における日本との文化の違いを紹介して欲しい。
- ・ その方が推したい内容

こどもモニターの満足度についてのアンケート

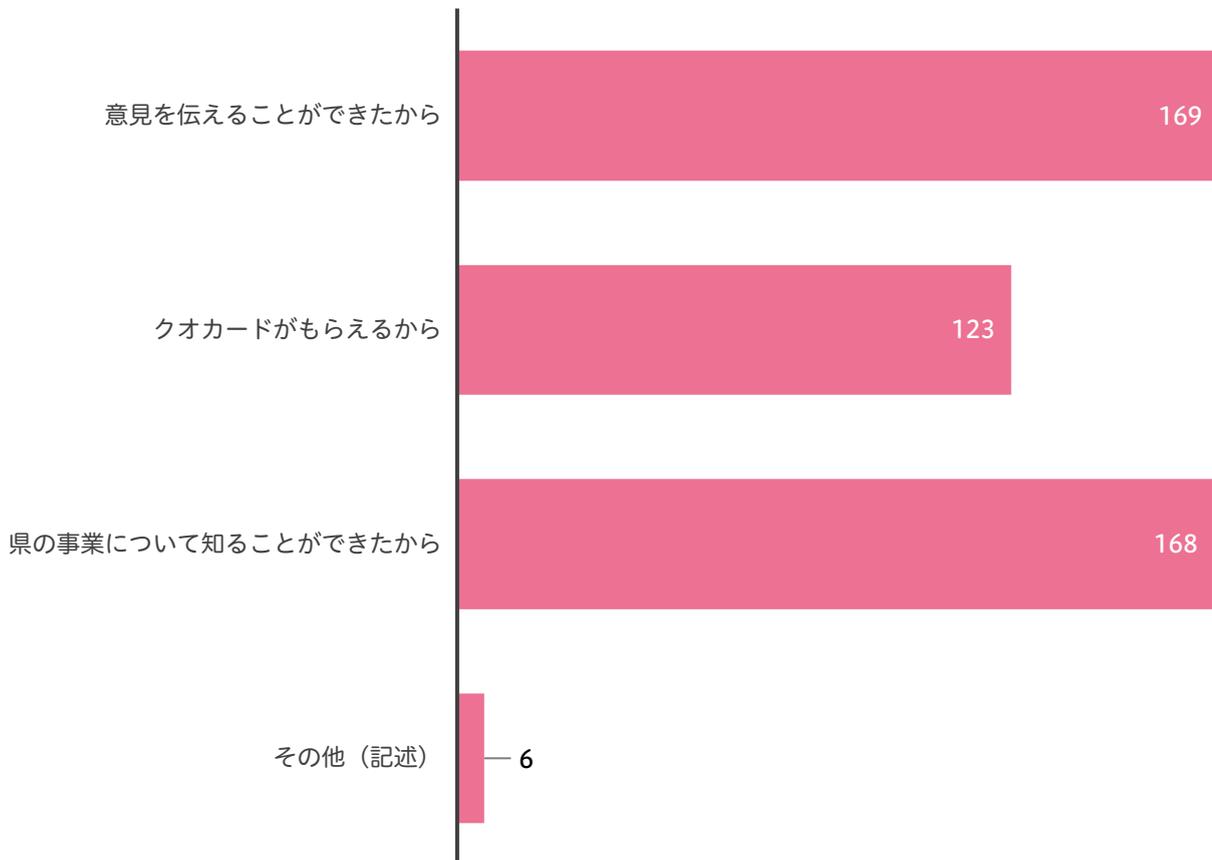
Q1.こどもモニターに参加して良かったと思いますか。



【調査結果の概要】

「良かった」が97%と大半を占めており、「よくなかった」が3%という結果となった。

Q2.「Q1」で、「よかった」を選んだ方に質問します。それはなぜですか。【いくつでも選んでください】



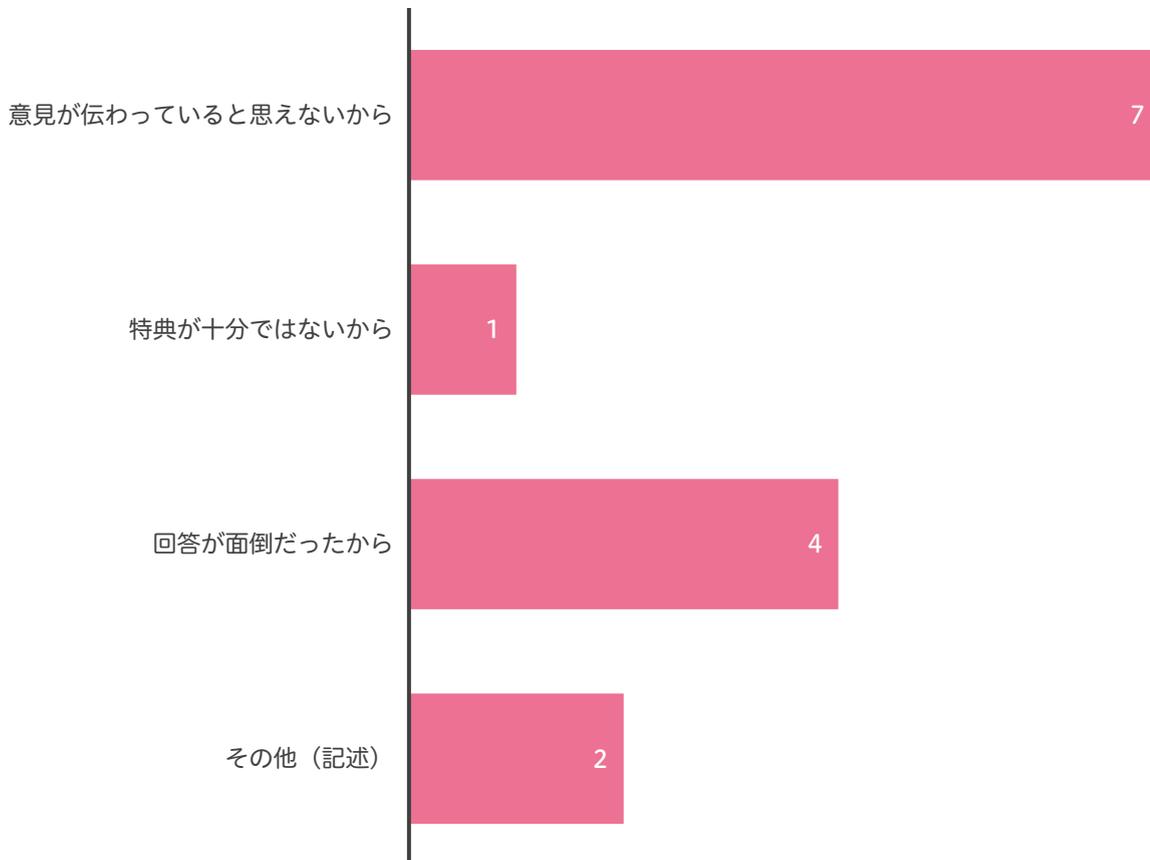
【調査結果の概要】

「意見を伝えることができたから」(169件)が最も多く、以下に「県の事業について知ることができたから」(168件)、「クオカードがもらえるから」(123件)と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 県として何を課題としてるかが垣間見えた。
- ・ 下野新聞の記事に、こどもモニターの結果が載っており、子供が「私が参加したアンケートだ！」と喜んでいました！
- ・ 様々な事柄を子どもと一緒に考えたり知ったりできたので、勉強になりました。
- ・ 知らない言葉を知れた
- ・ どのようなトピックが注目されているかを知ることができました。
- ・ 県に手軽に意見できるのはなかなかないので

Q3.「Q1」で、「よくなかった」を選んだ方に質問します。それはなぜですか。【いくつでも選んでください】



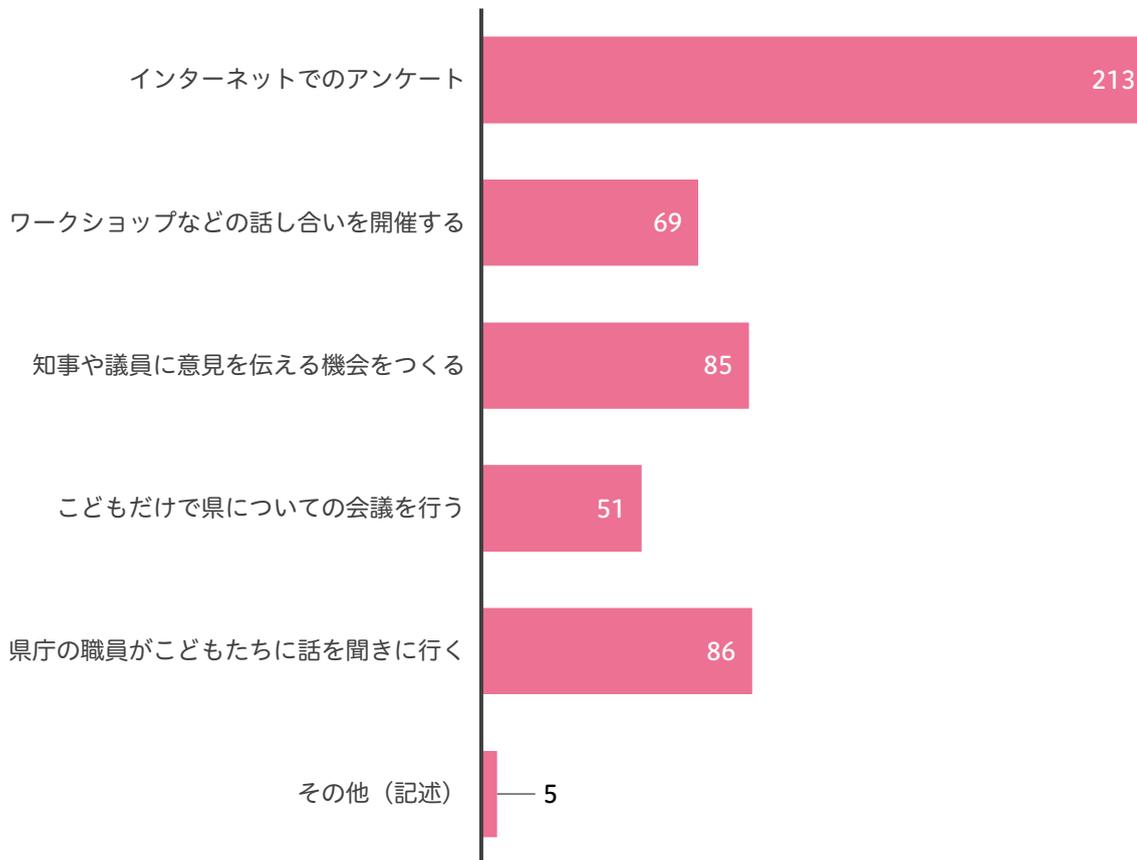
【調査結果の概要】

「意見が伝わっていると思えないから」(7件)が最も多く、以下に「回答が面倒だったから」(4件)、「その他」(2件)が続いている。

【その他の自由記述】

- ・ アンケートが形式的すぎて自分の住んでいる自治体のものだという愛着が湧かなかった。このアンケートを元に何を改善したり発信したりしてくれるのだろうか？分からないけど、意味があったらいいと思う
- ・ 質問の意図がよく分からなかったり、回答に困るものも多かった。

Q4.こども、若者、保護者から意見を聞く方法として、よいと思うものはどれですか。【3つまで選んでください】



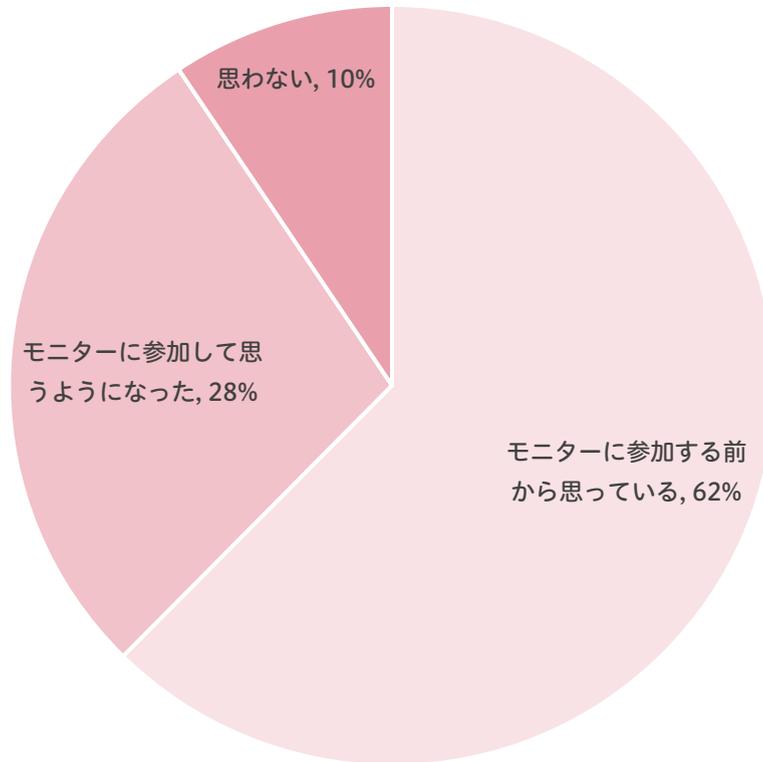
【調査結果の概要】

「インターネットでのアンケート」(213件)が特に多く、以下に「県庁の職員がこどもたちに話を聞きに行く」86件、「知事や議員に意見を伝える機会をつくる」(85件)、「ワークショップなどの話し合いを開催する」(69件)と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ こどもたちには、学校での記述式アンケートを実施する。
- ・ 小学校の教員ですが、教員の仕事を増やしたくはないですが、一番子供の素直な声が聞けるのは小学校だと思っています。小学生対象なら小学校に講話をしに行くやアンケートをやってもらうのが良いと思う。
- ・ 県庁の職員が各地域の子育てサロンや支援センターの集まりの場に顔を出して話をきく。意見箱や意見 form を設置して県民の声を届けやすくする。
- ・ 様々な小中学校で子供だけで県についての会議をしてもらってる内容をオンラインで知事や県議員が見る
- ・ 保育園、学校、福祉施設等にアンケートへの参加を促すポスターを配布する。

Q5. 「自分が社会の一員である」と思いますか。



【調査結果の概要】

「モニターに参加する前から思っている」(62%)が最も多く、続いて「モニターに参加して思うようになった」(28%)、「思わない」(10%)という結果となった。